くらふと
県育協だより

発　行
鳥取県子ども家庭育み協会
広報委員会
第25号

乳幼児期のこころ育て

鳥取県子ども家庭育み協会 副会長　寺　谷　志津枝

10月21日(金)14時07分、震度６弱の地震が鳥取県中部地区を襲いました。たくさんの被害があったことを心よりお見舞い申し上げますとともに、子どもたちの安全が確保され、保護者様の元へ無事送り帰せたことを、何よりうれしく思います。

倉吉市は被害も大きく、園の子どもたちの中には、数百回の余震を経験したストレスから、わずかな振動でも敏感に反応する子どもの姿がみられます。こんな時だからこそ、いつもと変わらない笑顔で、子どもたちを温かく包み込む保育を日頃から培ってきたかが問われるように思います。

「こころ育て」は、なかなか目にはみえないものです。目にみえないものだからこそ意識しなければ、育たない・育てられないと感じています。

「○か月で歩いた」「一人で服を着る」・「足が速い」・「縄跳びが何回もとべる」・「字が読める」「○メートル泳ぐ」等々、何かが人より秀でていることは、みていると目を奪われがちで、注目評価をしやすいと感じます。

先日、各園の２～３歳児クラス担任の学習勉強会がありました。その中で、「おやつに出た袋菓子は、一人で開けさせる。絶対手伝わない！周りの子にも手をださせない、出来ない子はいつまでも出来ないから」と、２歳児クラスの先輩保育士が話されたと若い保育士が報告しました。

年齢で育てたい自立に向けた個の力育てと、内面育てのバランスはどうだったのだろうか…。私たち保育士の力量や保育観が、もっとも問われると痛感した次第です。

子どもたちと長時間生活をともにしている保育士は、子どものモデルとなる行動・考え方・態度など、豊かな表現力をもって子どもたちと接し、自分の保育を振り返る勇気も必要と考えます。こうした、乳幼児期のこころ育てを省みながら、昨年度出かけた研修会、不登校、いじめ、暴言暴力、キレる子ども、非行など、教育現場で起こっている子どもの問題を、こころの発達の視点から考える「子どもみんなプロジェクト」の、中間報告会を思い出しました。

子どもの問題は、どんな仕組みで引き起こされるのだろうか？どんな環境でどんなふうに起こっていくのだろうか？

昨今の少子高齢化の進行、核家族化、地域コミュニティーの変容、価値観やライフスタイルの多様化など、子どもたちを取り巻く社会状況が激しく変化していることは皆様ご存知だと思います。小１プロブレムがクローズアップされるようになり、就学を迎えた子どもたちが、学校の環境にスムーズに適応できるように、鳥取県でも幼児教育と小学校教育をつなぐ取り組みや工夫が各市町村で始まっています。

しかし、感情や情動の爆発的な表出にどのように対応するのか、内在化したストレスをどのように把握し対応していくのかという課題は、まだまだ残ります。

保育指針改定にあたり、幼児期の終わりまでに育って欲しい具体的な姿のイメージも整理されてきていますが、人が育つための大切な根っ

こである乳幼児期に、私たち保育士が先ず育てなければならないことは、感情の気づきとコントロールすることの大切さに気づく為の保育内容の見直しと、関わり方を丁寧に繰り返し伝えていくことのように感じます。

災害にあうと誰もが、心に傷を負うことと思います。傷ついた記憶は消えてしまうことはありませんが、安心した人の中で、つらい気持ちをいろいろな形で表現して、心が整理されていくことで、つらい気持ちが落ち着き次に向かう力が湧いてくると思います。子どもがこれからの様々な新しい環境に立ち向かう強さを培うためには、乳幼児期に守られていることをたくさん経験し、安心感を持ち必ず自分の居場所がどこかにあることを知っていることだと思います。

「とても簡単なことなんだ。心で見ないとよく見えない。大事なことは、目にみえないってことさ」と、星の王子様も言っています。保育士として大切なものは何かを、探し続ける努力を忘れないでいたいと感じています。

保育制度が大きく変わり各園が模索した 2 年であったと思います。鳥取県子ども家庭育み協会が私たち保育士を支え導き、今後も大きく発展していきますよう皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

県内保育所（園）・認定子ども園　実態調査
調査時点　平成２８年６月１日
調査対象　県内保育所（園）・認定子ども園
・調査対象園　１５８園
・有効回答園　１２２園（回収率８０％）

育み調査委員会として平成 26 年度の実態調査をもとにしながら、今回H28年 6 月に「県内保育所（園）実態調査」をさせていただきました。

多忙な中、122 園からご回答をいただきました。

集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

【調査結果からみえてきたこと】（全体的な考察）

平成26年に取らせて頂いた調査委員会の結果と照らし合わせながら今回の調査報告とさせていただきます。先ず、保育士の配置は、監査指摘にもあるように、子どもの人数に対して、国・県の保育士基準で定められている（若干の保育不足はある）ことを考えると、混合クラス構成に保育士不足が関わるものとは思えない。年齢別単独クラスの困難さは､小規模園の増加と考えられる。また、食物アレルギー対策では国の方針が変わり、食べ慣れていく方向性になってきた。家庭で試される機会が増えてきたことで、少しずつ食べる食品が改善されてきたように思う。不慮の事故や災害対策等については、関連機関と連携して全園が実施している。しかし、子どもの怪我の原因の要因として、保育士の連携不足・不注意・不適切な立ち位置等の人的背景がみられる。

保・幼・小の連携については、各園が重要と考えているが、密な連携には課題が残る。（多忙で交流が形だけになりがち、保育児童要録の活用がまだまだ不十分等）

詳しいアンケート結果を載せています。今回のアンケートデーターが自園の保育の見直し・今後の参考に繋がれば幸いに思います。

ご多忙の中、ご協力ありがとうございました。

県内保育所(園)実態調査

Ⅰ．園の基本情報に関する調査

(1) 貴園の設置状況について

	H28	H26	H26との比較
公　営	67園	73園	6 園減
民　営	55園	55園	
合　計	122園	128園	6 園減

	H28	H26
回収率	80%	78%
調査対象園	153園	164園

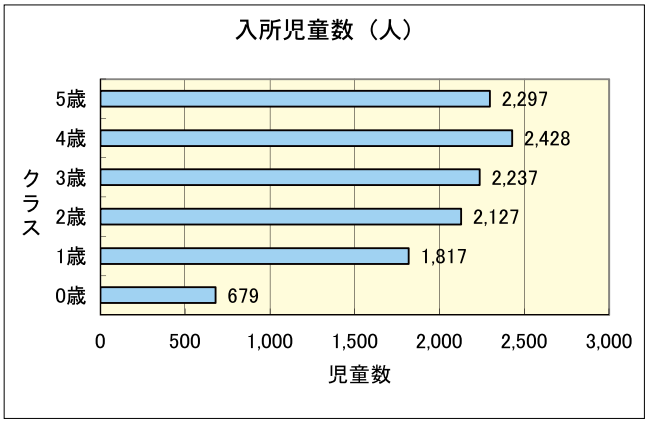
(2) 職員の配置人数、入所児童数

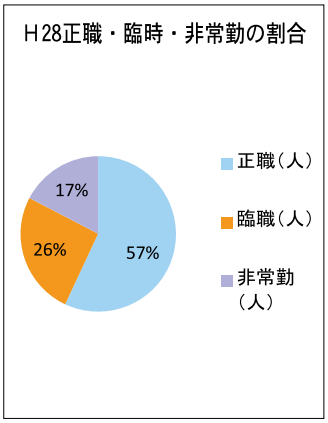
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	H28 計	H26 計	H26との比較
児童数(人)		679	1,817	2,127	2,237	2,428	2,297	11,585	11,623	38減
職員数	正職(人)	147	205	194	146	122	128	942	990	48減
	臨時(人)	72	116	108	49	46	33	424	812	388減
	非常勤	64	82	76	30	19	16	287	267	20増
	計	283	403	378	225	187	177	1,653	2,069	413減

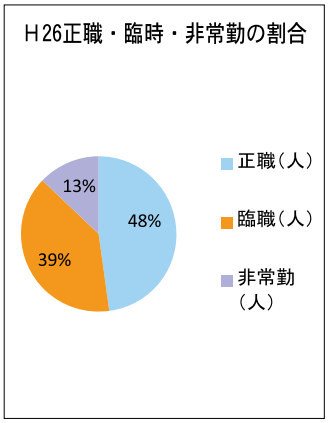
- 正職員の数がH26比べて10%増えている。
- 職員数では、臨時保育士が13%減っている。
- 非常勤職員は若干名増えている。

※非常勤職員とは、各施設の就業規則等で定めた勤務時間を下回る職員とする。

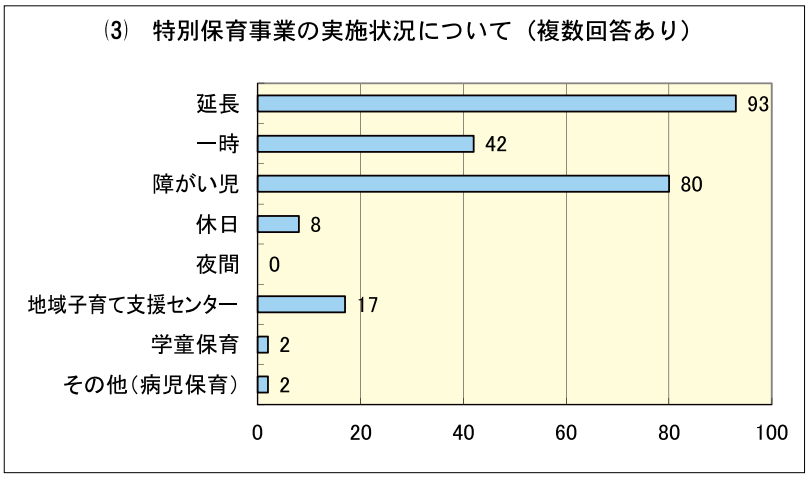
職種	常勤							非常勤				計
	所長 園長	副園長 補佐	主任 保育士	保育士	給食 担当	看護師	事務員	保育士	給食 担当	看護師	事務員	
人	120	105	196	997	250	37	1	565	152	12	1	2,436





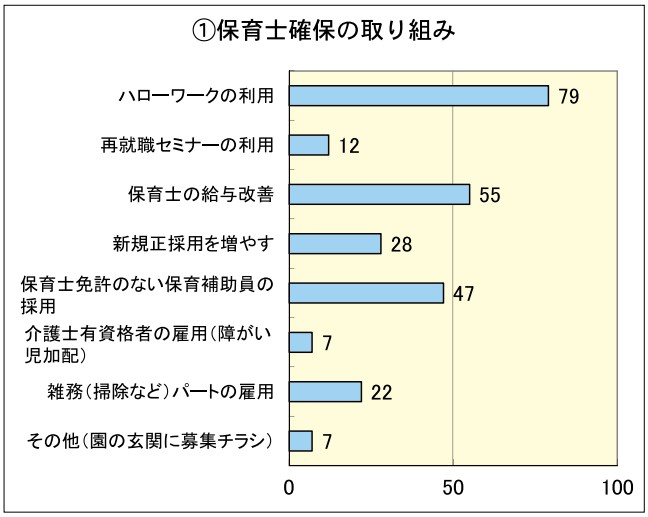


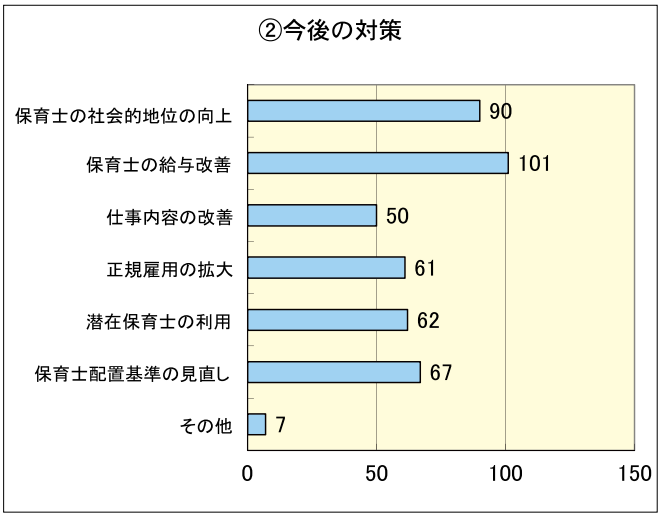
(3) 特別保育事業の実施状況について（複数回答あり）



(5) 保育士確保の現状

①保育士確保の取り組み　　②今後の対策





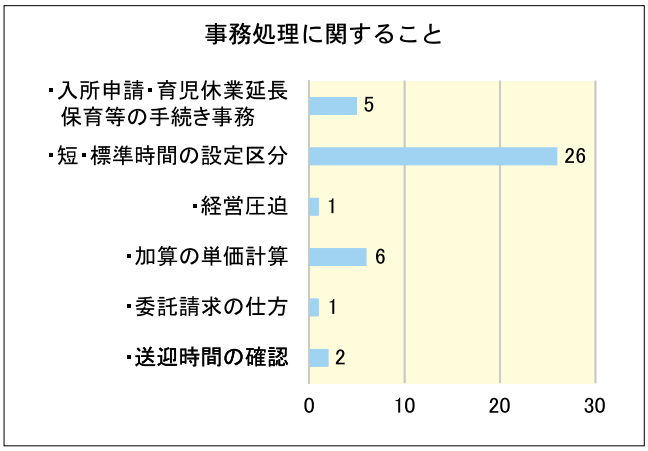
【考察】

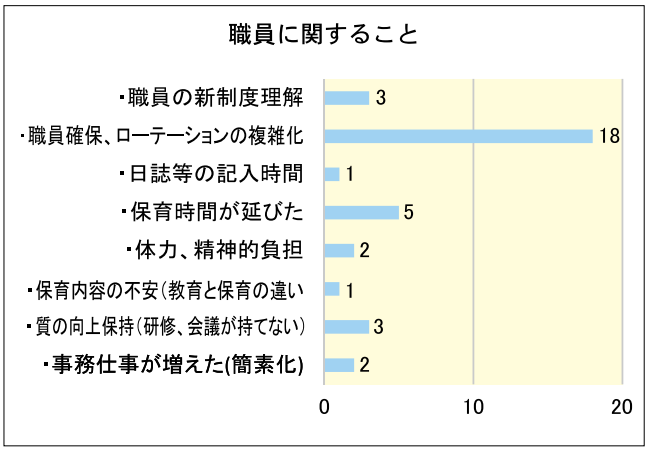
○保育士不足の中で、保育士確保や保育士離職を減らす一つの対策として臨時職員を正規雇用者として増やしている園が多くなっているが、その分臨時職員の数が減っている。

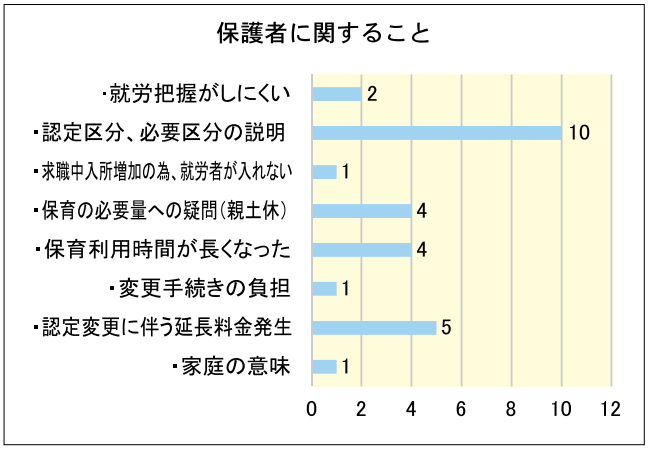
○保育士の社会的地位の低さが問われていたが、保育士の処遇改善は徐々に上がってきている。３年間継続育休取得や時短取得等の改善により退職者は減ったように思う。しかし、保育士のやりがいのある仕事であるプラスのイメージや職場の人間関係の透明さを現場からもっと発信しなければ、保育士は大変だというイメージを払しょくできない。(働きやすい職場づくり)

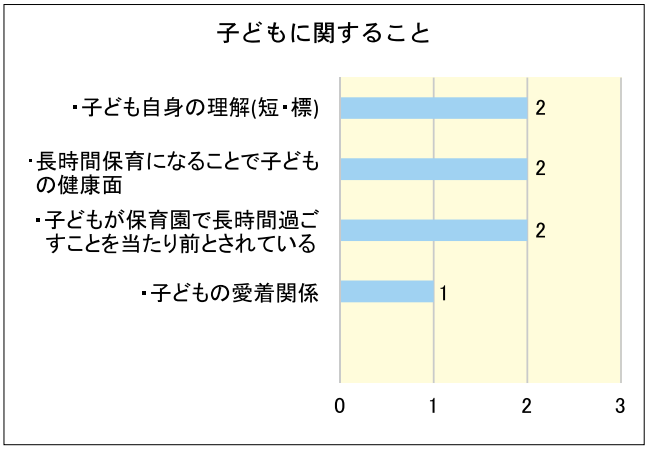
○保育士免許を持たない保育従事者研修会への参加園が増えた。

(4)－①新制度に取り組む中で困ったことをお聞かせください。





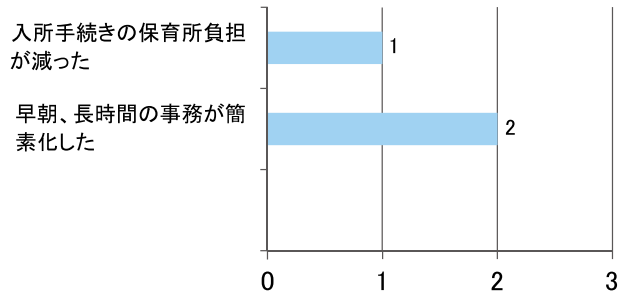




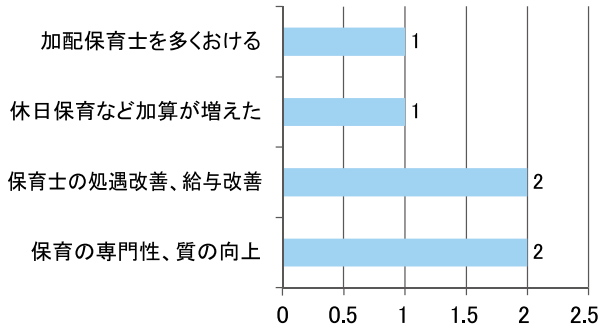
その他 … ・行政の対応が悪い　2　　・大きな変化はない　2

⑷－②新制度に移行して良かったこと

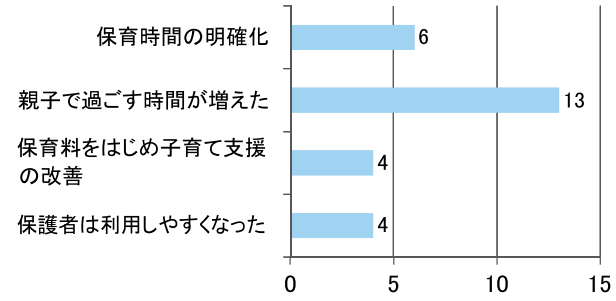
事務処理に関すること



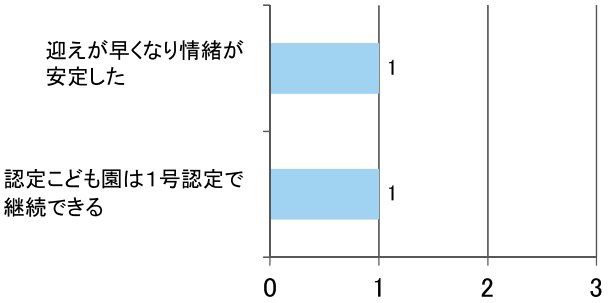
職員に関すること



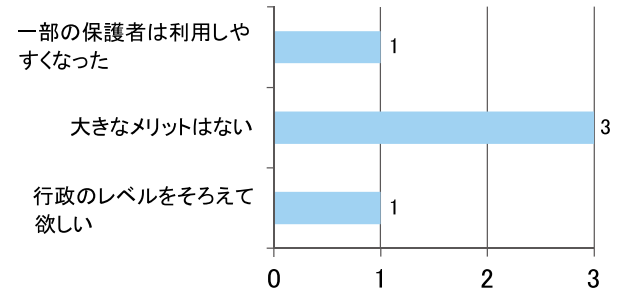
保護者に関すること



子どもに関すること



そ　の　他



【考察】

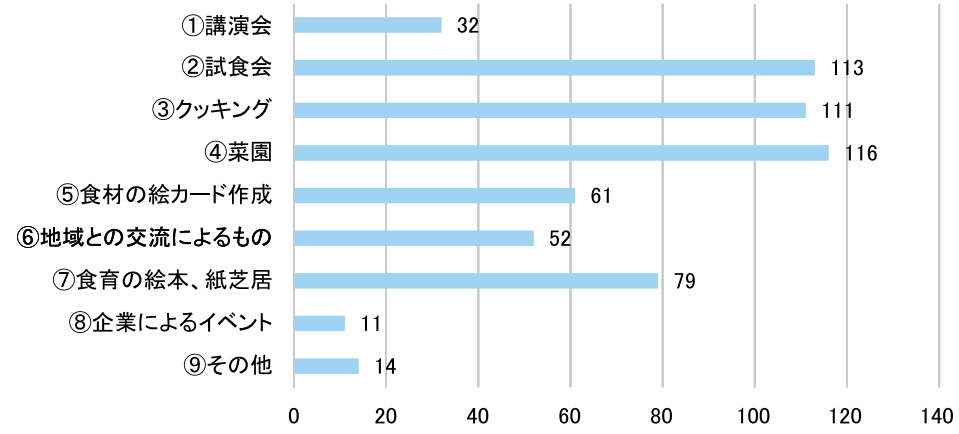
○「事務処理が多くなり複雑化した」の回答が多かった。しかし、事務処理の良かった点での回答は、早朝保育・長時間保育の申し込みが不要となり（標準時間・短時間で整理）軽減された。

○利用者へのサービスは充実したが、保育士不足のためもあるが、保育士の勤務体制は過酷になった。（子どもの保育時間11時間に対し保育士の勤務体制８時間前後であるため変則勤務対応が負担かつ困難）

○行政への不満

Ⅱ. 食育・アレルギー児への対応について

(1) 食育の年間計画に基づいて、どのような取り組みをされていますか？



⑨その他

- 食育サークル者を招いた催し、啓発
- 年３回給食参観日を実施し食事のマナーを保護者にみてもらう
- アレルギー対応食の提供
- 栄養素グループ表作成
- 祖父母との交流
- 栄養士による指導
- 給食だより配布（年４回）
- 給食食材　準備の手伝い
- 市の取り組みとして、豆腐、銀鮭、マグロ等による集会
- 魚のせり
- 世代間交流活動で、クッキングする

(2) (1)でクッキングと答えられた方は、そのメニューをお知らせください。

- カレーづくり　・目玉焼き　・野菜炒め
- ホットケーキ　・豚汁　・みそ汁　・ご飯をたく
- 団子づくり(よもぎ・月見、さつま芋)
- ゴーヤジュース　・たこ焼き　・干し芋
- 桜もち　・干タコ大根　・夏野菜バーベキュー
- ねぎチヂミ　・手打ちうどん　・米せんべい
- おでん　・笹茶　・ピザ　・梅ジュース
- しそジュース　・いちじくジャム　・焼きさんま
- 芋づるきんぴら　・おやき
- ワラビのかつお和え　・ヨモギケーキ
- ふきの煮物　・そら豆塩茹で　・ハーブチキン
- キャベツのゆかり和え
- さつま芋揚げまんじゅう
- ２歳児中心のいちごジャムづくり
- 農家の人から直接野菜納品　・大根ステーキ
- 干し柿づくり

(3) 貴園の独自のお楽しみメニューまたは行事食メニューをお聞かせください。

月	メニュー
4 月	お花見ランチ、アンパンマンランチ
5 月	こいのぼりずし、筍掘りの後お釜を使って筍ご飯、こいのぼりオムライス、こいのぼりランチ、こいのぼりフルーツサンド、子どもの日お祝いランチ
6 月	くいの葉餅、かえるバーガー、菜種ランチ
7 月	七夕そうめん、七夕ハンバーグ、南の島ランチ
8 月	七夕ランチ、ひまわりランチ
9 月	お月見ランチ
10月	ハロウィンキッシュ、ハロウィンランチ、焼き芋
11月	バラエティーサンド
12月	クリスマスバイキング、クリスマスリースランチ
1 月	七草栄養すいとん、雪だるまポテトサラダ、餅つき、おサルさんランチ
2 月	オニピラフ、鬼さんハンバーグ、鬼っこご飯、雪だるまランチ
3 月	手巻き寿司パーティー、お別れ会食、卒園児の希望献立
	年長児考案お楽しみメニュー、リクエストメニュー、地産地消メニュー、バイキング式、豆腐入りココアババロア、ハンバーガーづくり、おにぎらず、鳥取県のごちそう、県別のごちそう、国別メニュー、サーモングリル、コーンフレーククッキー、幅広い魚料理、ほっかほかご飯の日、おやつバイキング、ポップコーン、そしゃくを促す献立(かみかみこんぶ、フランスパン)、おたのしみこんだて(保護者アンケートをしてメニューを決める)、ジオパークランチ、しょくぱんまんラスク、鶏肉のレモン風味、ビーフン汁、各園人気メニューを全園で順番に実施、育てたごまでおにぎり、あごバーグ、いわしのかば焼き、赤飯、干し柿入り蒸しパン、アンパンマンチキンライス、七輪で野菜、さんまを焼く、魚つかみ・調理して食べる活動体験、菜園活動により育て摘んだいちごジャムづくり

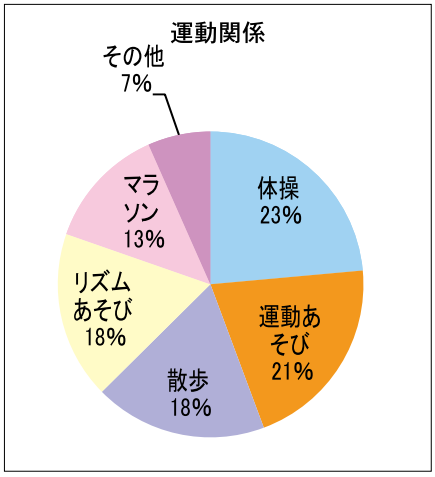
(4) 食物アレルギー児の対応や解決策についてお聞かせください。(複数回答あり)

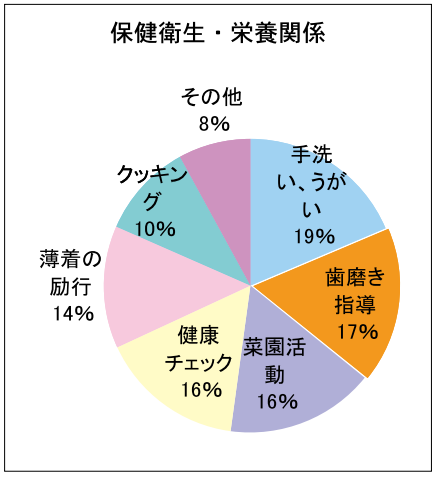
内　　容	行っている園数(153園中)
①どの職員も共通理解する	117
②トレーや食器の色を変えたり、テーブルを別々にする	115
③配膳の際、複数の職員で確認する	112
④調理の際、受け渡しの際に指差し確認をする	93
⑤名札にアレルギー食材を書いて確認する	92
⑥除去食を先に配膳する工夫をする	86
⑦コピー食でなく、違うメニュー食を提供する	60
⑧特定の職員がつく	48
⑨片付けの際、他児との居室のスペースを確保する	27

⑩その他（記載）

・除去食確認簿作成（日々配膳する者、クラス担当、保護者が記入）
・アレルギー除去食表を毎月、保護者へ配布し確認する
・食物アレルギー緊急対応マニュアル確認
・専用トレーだけでなく、食器ひとつひとつにクリップして、おかわりの時も間違えないようにしている
・給食献立表のアレルギー材料名を事前にクラス担当者が把握しておく
・アレル源除去食ご配膳防止マニュアル確認
・食物アレルギー研修に参加

(5) 子どもの健康を考えていくうえで、体づくりとして園で毎日しておられる活動があればお聞かせください。(複数回答あり)





その他（記載）

運動あそび

・裸足保育・戸外遊び・乾布摩擦・リトミック・雑巾がけ・かけっこ・感覚統合あそび
・チャレンジタイム年長・タオルストレッチ・リズム運動・サーキット遊び
・年齢に応じた運動遊び（竹馬、縄跳び、鉄棒、上り棒）・音楽に合わせた運動遊び
・マラソン・あしの裏つくり・芝生の上を裸足で遊ぶ・隙間を利用した運動遊び

保健衛生・栄養関係

・フッ化物洗口・健口体操・手洗いチェッカー利用・水分補給・汗の始末
・薄着・ショートパンツの着用・食育当番（献立のお知らせ、三色栄養調べ）
・地産地消の食材・かみかみおやつ・給食の手伝い・食材の興味を示すように紹介
・米とぎ・卵割・まめのすじ取り・野菜の皮むき

その他

・月２回小遠足

Ⅲ. 日々の保育の中での危機管理について

(1) 子どもが持つリスクに対し園で行われていることをお聞かせください。(複数回答あり)

内　　容	園 数
①登園時の健康観察・視診	123
②子どもの心身の特性や既往歴の把握	121
③遊具、園庭、プールでの遊び方についての安全指導	118
④SIDSチェック	115
⑤エピペンについての知識や使用方法の研修	75

(その他)
- 園内リスクマネジメント委員会　・アクシデントＳＨＥＬシートで考察
- 危険予知トレーニング　・ヒヤリハットの収集
- 虐待チェックシートの活用　・救命救急講習　・ＡＥＤの使用方法の確認研修

(2) 保育所(園)や保育者の持つリスクについて園で行われていることをお聞かせください。(複数回答あり)

内　　容	園 数
①不審者対応訓練の実施	121
②ヒヤリ・ハットの記入、活用	115
③事故防止や救命救急・応急手当の研修	112
④事故対応マニュアルの作成	112
⑤嘱託医との連携	99

(その他)
- リスク委員会設置法人　リスクマネージメント　嘱託医との勉強会
- エピペン講習　・110番非常通報装置の設置　・消火訓練・通報訓練

(3) 物的環境が持つリスクに対して園で行われていることをお聞かせください。(複数回答あり)

内　　容	園 数
①園舎内外の施設、設備、遊具の安全点検	122
②ＡＥＤの設置	107
③散歩コースの危険箇所の把握	106

(その他)
- 110番非常通報装置の設置　・遊具・室内消毒
- 園内の危険と思われる場所の把握
- 園舎内外のアクシデント発生状況の把握と再発防止策の実施

(4) 保育中で実際に起こったケガ、事故があればお聞かせください。(複数回答あり)

内　　容	園 数	内　　容	園 数
①転倒	99	⑥与薬に関すること	9
②衝突	92	⑦制作中の事故	8
③遊具を使用中のケガ	72	⑧誤飲	3
④アレルギー	16	⑨プールなどの水の事故	1
⑤転落	13	⑩睡眠時の事故	0

(その他)
- クッキング中の事故　・虫ざされ　・噛みつき、ひっかき怪我　・腕が外れた
- トイレのドアの通気口に指を入れて切り傷ができた　・捻挫　・ガラスへの激突で負傷

(5) 保育中に発生するケガ、事故の原因について考えられるものをお聞かせください。(複数回答あり)

内　　容	園 数
①子どもの行動の予測がつかない	105
②職員の連携不足	76
③職員の不注意	68
④職員の不適切な立ち位置	61
⑤環境構成、安全点検の不備	58
⑥職員の人数不足	22

(その他)
- 社会性が未発達な乳幼児を保育するうえでやむを得ないこともある。
- すぐ転ぶ、転んでも手をつかない等、子どもの体幹がしっかりしていない。
- 子どもたちが生活の中のルールもなかなか守れないこともある。職員と子どもたちのつながり感も確認しながら、ヒヤリハットを見逃さず園全体で取り組んでいく。

Ⅳ. 保幼・小の連携について

(1) 保幼・小の連携の必要性ついて（複数回答あり）

内　　容	園 数
①非常に必要	74
②重要	47
③どちらとも言えない	2
④あまり意味がない	0
⑤不要	0

（その他）保幼から義務教育へと進んでいくうえで、子どもの成長発達や学びは連続していく

(2) 現在 行われている連携内容についてお聞かせください。（複数回答あり）

内　　容	園 数
①連絡会・情報交換会等の実施	109
②保育士の小学校参観	108
③小保育所(園)での子ども同士の交流	94
④学校教諭の保育参観・保育体験	72
⑤小学校での子ども同士の交流	64
⑥合同研修会の実施	50

（その他）夏休み中の学校施設の使用(小プールの体験)　就学移行支援会議
園だより、学校だよりなどの発行交流

(3) 保幼・小の連携で具体的に伝えたい情報、内容についてお聞かせください。（複数回答あり）

内　　容	園 数
①支援の必要な子どもについて	117
②子どもの個性や友だちとの関係	108
③アレルギーや健康面について	108
④家庭環境や親子関係	95
⑤各園の方針と保育内容や行事など	65

（その他）同校区での年長児交流

(4) 保幼・小の連携で具体的に知りたい情報、内容についてお聞かせください（複数回答あり）

内　　容	園 数
①小学校入学後の卒園児の様子など	111
②小学校の学びを意識した就学前の取り組みについて	96
③小学校の就学までに習得しておくべきことについて	94
④小１プロブレムに実態について	79
⑤小学校の生活や行事について	55

（その他）アプローチプログラムとスタートカリキュラムのつながりについて確認しあう。
支援に必要な子どもの経路
効果的だった支援、関わり方、保護者とのかかわり方など

(6) 保幼・小連携をおこなうにあたり問題・課題となること

（問題）・保育所(園)、小学校相互の取り組みや考え方を伝えあったり、理解を深めたりすることで連携がよりスムーズ にいくと思うが、それをリードする職員、また、時間が不足している。
・教員の意識に個人差があり、就学前の子どもたちの理解が薄いため、共通認識が深まらない。
・就学する小学校区が広範囲なため、それぞれの小学校と連携がとりにくい。
・保護者を交えての移行支援会議を行っても、新年度になると伝っていないことがある。
・小学校側が連携の必要性を感じ積極的に取り組もうとする姿勢・意識を持ってほしい。
・学校によって保育園との連携に対する温度差がある。

など

（課題）・中心になって動く職員だけでなく、全職員が連携の必要性を感じ積極的に動くこと
・保育所保育指針や学習指導要領についてお互いの共通理解を深めることが必要。
・職員の異動があっても、連携ができるマニュアル的なものが必要ではないか？
・行政が保、小中連携に理解があり、協力的である。行政側の方針、理解が一番である。
・幼児期から小学校へと子どもの発達や学びの連続性を保障するために、保育園が小学校と連携して接続カリキュラムを作ることが大切であり、必要である。
・低学年だけでなく、中高学年においても互いに育ちあうような交流が必要と感じる。

など

⑺　保幼・小連携による成果

・入学前に支援の必要な子どもについての情報を伝えることができる。
・保小連携が定着してきており、定期的に話し合い、交流等を行い、点検、見直しをすることで、毎年内容が充実してきている。
・小学校より、長期社会体験を受け入れ、保小の違いを知り、就学するうえで段差を小さくするようなアプローチカリキュラムを取り入れるようになった。
・移行支援会議を持ったり、事前に体験入学をしたりすることで親子とも安心して就学することができた。
・中学校区でのキャンペーン(ノーメディアなど)の取り組みを一緒に行うことで保護者の意識も高まる。
・教職員の保育体験を通し、園での支援の仕方、子どもたちの様子が理解してもらえる。
・日々、顔の見えるかかわりを基本に、園だよりを届ける、地域行事に参加する、会に出席するなど、積み重ねていくことで保幼小の連携もスムーズに行えるようになった。

など

自由意見

次回の実態調査に取り上げてもらいたい内容等があればご記入ください。

（保護者）
・保護者のコミュニケーション向上のためにしていること
・生活面、精神面で支援の必要な児童の受け入れ状況
・障がい児保育の実施状況
・医療行為の必要な児童の受け入れ状況
・保育園における図書の環境や体勢について
・ 3 歳以上児、 3 歳未満児別の読み聞かせの内容（H26年 3 月鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン策定に伴い）

・保育士が働くために支援が必要と感じていること
・保育士の人材育成
・保小連携について
・園内研修の持ち方　2
・国の施策・動向について
・保育士の資質向上
・保育士不足解消のための施策　3
・保育園に入所したいというニーズと受け入れる側の体制とのズレが数字ではっきりわかる（一般の人がみてもわかるよう）調査があれば、県・国への要望にも説得力がでる。
・保育士減の状況を脱する手だて等。現状把握されたら県・国へ現状報告さらには解決の糸口を見い出せるようになればと思います。

・今回のままで良い。

（要　望）
・県内の保育士養成のわくをさらに広げ、保育士人口を増やしてもらいたい。
・無資格の方が子育て支援員の資格をとる為の人数わくも広げてほしい。

（調査委員会：寺谷志津枝　山本克宝　松本美紀　中井史絵　西本由美子　和田知之）

鳥取の保育園
私たちの園

所在地：鳥取県鳥取市津ノ井 246-1
定員：110人（０～５歳）

津ノ井保育園 園長
宇山 麗子
（うやま れいこ）氏

津ノ井保育園は平成26年４月に鳥取福祉会が受託し、平成27年11月24日現在の場所に新築移転。
平成28年１月10日竣工し定員90名で、アクティブ津ノ井と併設、幼老複合施設として開設。

― 第２回　くらふと広報誌からの保育園紹介 ―

社会福祉法人 鳥取福祉会
津ノ井保育園

社会福祉法人　鳥取福祉会「津ノ井保育園」は、県内でもめずらしい幼老複合施設で運営されています。少子高齢化や核家族化が進む中、高齢者と子どもが関わりあう異年齢世代の交流が少なくなっているのが現実です。そのような現実の中、園児と高齢者がふれあえる環境の下、社会性を培いながら遊びの中で学び合い健康な体づくりをめざして、お互いが相乗効果を得られるようにしています。また、広々とした室内空間と採光に配慮した明るい園舎で、地域の方や高齢者に見守られながら、いきいきと活動し心豊かでたくましい子どもを育成しています。

年間行事の七夕まつりや収穫祭などは、高齢者と一緒に楽しみながら思いを共有し、人と人とが関わり合い成長する大切さを実感できる生活が津ノ井保育園には存在します。

社会福祉法人鳥取福祉会が運営する津ノ井保育園は、鳥取市の南に位置し商業地工業地住宅地の混在する中にあります。機能訓練型デイサービス・アクティブ津ノ井と併設しており、扉一枚で行き来のできる幼老複合施設です。園児は０歳から５歳までの定員120名、現在125名の園児が在籍しています。広々とした室内空間と採光に配慮した明るい園舎で「あつまれホール」には、子どもたちの好奇心をくすぐるロフトが設置されています。お隣の高齢者施設アクティブ津ノ井も和モダンを基調とするおしゃれな空間になっており、毎日20名程度の利用者が園庭で遊ぶ子どもを見守りながらトレーニングを楽しむことができます。

津ノ井の周辺地域でも祖父母と同居の家庭が少なくなり、今後ますます核家族が多くなる中、津ノ井保育園のような幼老複合施設でなくとも様々な形で、地域と共に育む生活からの子育てを培っていくことは、大切なことだと改めて感じました。

園児と高齢者がふれ合い相乗効果

高齢者施設と併設しているので、子どもが園庭で遊んでいると、施設の高齢者の温かい見守りがあり、縄跳びや鉄棒ができるようになったことを認め肯定する姿は、継続的な関わりがあればこそのエピソードだと思います。逆に子どもが高齢者を見守る姿も見られ、高齢者が滑り台に挑戦し葛藤する姿を子どもたちが応援する言葉も聞かれ、お互いが認め合い助け合いながら生活することが、とても大切な体験を幼児期に育んでいることを感じました。

また、高齢者の得意分野を子どもたちに伝え

ることもあり、保育園の行事に高齢者がハーモニカなどの楽器を披露する機会をつくっておられます。菜園活動をする際も、野菜づくりが得意な方に育て方を教えてもらいながら、菜園づくりを体験することで、日常の保育の中から知識や経験を育むことに日本の教育文化を感じることができます。

園を知る３つのポイント

ポイント①

知

「遊びの中で学びあう」

身近な自然に親しみ実体験することや、菜園活動や探究遊びを通して五感（見る、聞く、かぐ、味わう、触れる）を働かせる経験を大事にしています。その中で様々なことに興味関心を持ちながら、発見や感動、工夫することを生活に取り入れようとする力を育てます。

ポイント②

徳

「人とかかわる力」

友だちや保育者、地域の方々など様々な人との交流を通して、人と関わることの楽しさを味わうことや、きまりの大切さに気づいて守ろうとする力を育てます。

日常生活の中でのふれあいや異年齢交流「わくわくデー」での、交流や会食を通して、優しさや思いやりの気持ちが培われています。

ポイント③

体

「元気なからだ」

毎日の体操かけっこや、発達に応じた運動遊びに取り組んでいます。また４、５歳児対象に月２回の「のびのびキッズ」では運動指導員による専門的運動遊びも取り入れています。「あきらめないで最後までやってみよう！」と運動遊びに意欲的で仲間とともに活動する力を育てています。

各研修会報告

第２回乳児保育研修会に参加して

さとに保育園　中井　史絵

平成28年鳥取県乳児保育研修会が９月27日（火）とりぎん文化会館リハーサル室にて開催されました。講師に日本マタニティフィットネス協会認定ベビービクスインストラクターの淺見真子先生・三村恵里先生をお迎えし、「ベビービクスで私たちが伝えたいこと」と題して実技を交えながら講演していただきました。

ベビービクスとは、赤ちゃんとお母さんとのスキンシップを基本にベビーマッサージとベビーエクササイズからなるプログラムであり、親子の絆を深め愛情と信頼関係を育てることを目的とされています。赤ちゃんの日常生活のリズムを整えたり、お母さんが赤ちゃんと過ごす時間がいっそう楽しくなることが期待されています。

講演の中では実際のベビービクスの教室の様子をＶＴＲで見せて頂き、相手は人形ではありましたが参加者もベビービクスの体験をしてみました。たくさんのわらべ歌を取り入れたベビービクスではゆったりとした雰囲気の中で赤

ちゃんと目と目を合わせ、触れ合うことで体の緊張が解けリラックスし、赤ちゃんは「目と目を合わせるとこんなに楽しいんだ」ということを学びます。それが今後のコミュニケーションの土台にもなるとのことでした。

保育の中でも子ども一人ひとりと目を合わせ、安心した生活やあそびが出来る場所づくりの大切さを改めて気づかされました。

子育て中のお母さんたちを取り巻く状況がこの10年で急速に変化してきているようです。

そんな今だからこそ、今しか出来ないふれあいの時間が大切なんだと感じました。

初任・初級保育士研修会③

賀露みどり保育園　和田　知之

育み協会青年部では毎年、保育園に勤めて1～2年目の初任・初級保育士の方を対象に年3回の継続した研修会を企画しています。

3回目の研修は1月27日に倉吉体育文化会館において、1回目から引き続き、「遊びきる子どもをめざして～子どもを知る～」をテーマに研修会を行いました。

研修会では、それぞれが担当されている子どもの年齢ごとに1グループ5、6人に分かれて、2つのお題についてグループワークを行いました。

1つ目のお題は「新たな子どもの発見」。

保育園で子どもと接していると、子どもたちはきっとこういう思いであそびを楽しんでいるんだと思い込んでしまう時があります。しかし時に子どもたちは大人が想像している以上の考えやあそびの結果を見せてくれることがあります。そういった新たな発見について話し合いました。

2つ目のお題は「自分をふり返って」。

1、2回の初任・初級保育士研修会を通して感じた自分がこれまで行ってきた保育はどうだったか、子どもたちにどう接していたか等を話し合いました。

本来であれば鳥取大学教授　畑千鶴乃先生をお迎えし総評していただく予定でしたが、このたびの中部地震で予定していた期日が延期となり、残念ながら畑先生は御欠席ということになりましたが、同じ年齢を担当され、共感する部分も多々あったのか、それぞれのグループが活発に意見を出し合い、子どもたちが遊びきるために、保育士ができる手立ては何かといったことに対して真剣に話し合いを行っておられました。

今回の一年を通した研修で学ばれたことを、「学んで終わり」ではなく園に持ち帰り、園長先生をはじめ、先輩の先生方と益々研鑽を積まれ、保育に活かし、更に今後入って来られる後輩の先生方にも伝えていってほしいと思います。

ご受賞おめでとうございます
鳥取県子ども家庭育み協会会長表彰

氏名	所属	役職名
新　茂雄	わかば保育園	保育士長
石田　薫	わかば保育園	主幹保育士
井田かおり	つばさ保育園	保　育　士
大前美由紀	めぐみ保育園（鳥取）	保　育　士
岡村　順子	倉吉愛児園	保　育　士
影井　敬子	浜坂保育園	保　育　士
小笹　美穂	わたり保育園	保　育　士
嶋田　恵美	浜坂保育園	保　育　士
大道　菊江	なかはま保育園	保　育　士
谷浦千加子	浜坂保育園	調　理　師
平田　絵理	のぞみ保育園（鳥取）	主任保育士
藤原奈央子	みなと保育園	事　務　員
宮本　暁子	めぐみ保育園（鳥取）	保　育　士
森　有美子	倉吉愛児園	調　理　員
森田るり子	みなみ保育所	副　所　長
山下　深良	めぐみ保育園（鳥取）	主任保育士
山下由佳利	浜坂保育園	主任保育士
山田　広美	なかはま保育園	保　育　士

（敬称略・五十音順）

＜絵本の紹介＞

「ぺんぎんたいそう」

作　　齋藤　　槙
出版社：福音館書店
ISBN：9784834082531 C8795
定価 800円（税別）

「ぺんぎんたいそうはじめるよ」この絵本がはじまると、子どもたちはまねっこをして、体を動かし始めます。

上手にできるところや、ちょっとむずかしいところもあり、最後に「おしりふりふり」をして、小さいクラスのみんなが顔を見合わせ、にっこり。

「たのしかったねー」とみんなで共感できる、とてもすてきな絵本です。

「いのちをいただく　みいちゃんがお肉になる日」

原案　坂本　義喜
作　　内田美智子
絵　魚戸おさむとゆかいななかまたち
出版社：講談社
ISBN：9784061325616
定価 1,400円（税別）

現代の生活は「命をいただく」というイメージからずいぶん遠くなっています。お金さえ出せば手を汚すことなく簡単に食材を手に入れられる時代に、体験談を基に書かれており命の大切さを改めて実感し食について考えさせられる一冊です。『生きることは尊いこと』『あなたが大切だ』を伝え「いただきます」という大切な言葉に気づかせてくれる絵本に胸がいっぱいになることでしょう。

「びっくりまつぼっくり」

文　多田多恵子
絵　堀川理万子
出版社：福音館書店
ISBN：9784834025811
定価 900 円（税別）

この絵本を読んでいろいろなまつぼっくりのことを知りました。

子どもたちにも読み聞かせをし、びんづめまつぼっくりを作り楽しんだ一冊です。

まつぼっくりの楽しさをみんなで共有してみてください。

「「みんなの学校」が　教えてくれたこと」

著　　木村　泰子
出版社：小学館
ISBN：9784098401635 C0037
定価 1,400円（税別）

大阪市住吉区にある「市立大空小学校」を１年間追ったドキュメンタリー映画『みんなのがっこう』。そのインクルーシブ教育に見た者は衝撃を受けます。

2015年２月に封切られると、じわじわと話題になり、ロングラン＆自主上映されるように。本書は初代校長木村泰子さんの熱い想いが細かいエピソードと共に語られます。「この学校は誰が作りますか？」「みんなです」「みんなとは誰ですか？」「自分です」……地域、教職員もひとつになって、不登校ゼロを作りあげます。校則は特になく、たったひとつの約束は「自分がされていやなことは人にしない。言わない。」です。どんな子も学校に居場所があり、仲間として助け合い主体的に学習、成長していく姿が感動的な一冊です。

平成29年度　事業計画

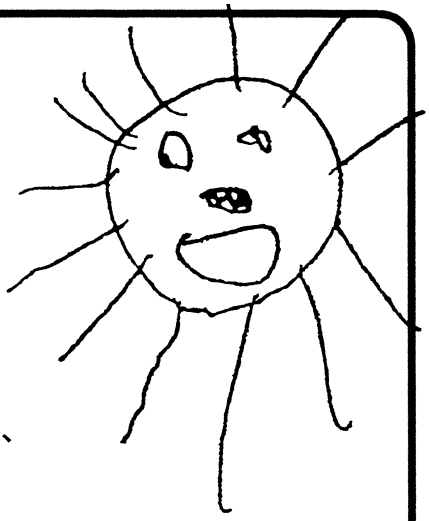
期　日	事　業　名	場　所	備　考
平成29年５月16日㈫	第１回理事会	倉吉市　上井公民館	
平成29年５月25日㈭	代議員会・第１回施設長研修会	倉吉市　新日本海新聞社中部本社	
平成29年６月７日㈬～９日㈮	第60回全国私立保育園研究大会	京都府京都市	全国私立保育園連盟
平成29年６月16日㈮	第２回理事会・合同部会	倉吉市　倉吉体育文化会館	
平成29年６月21日㈬～23日㈮	第31回保育を高める研究集会	和歌山県	日本保育協会
平成29年６月25日㈰	第１回食育研修会	鳥取市　福祉人材研修センター	
平成29年６月27日㈫	主任保育士研修会	倉吉市　倉吉体育文化会館	
平成29年７月19日㈬	初任・初級保育士研修会①	大山町　森の国	
平成29年７月27日㈭～28日㈮	**第63回中国地区保育研究大会**	**鳥取市　とりぎん文化会館**	**中国地区保育協議会**
平成29年８月19日㈯	保育士研修会	倉吉市　倉吉未来中心	
平成29年８月下旬	初任・初級保育士研修会②	県内保育施設	
平成29年８月26日㈯	第１回障がい児保育研修会	鳥取市　福祉人材研修センター	
平成29年８月27日㈰		米子市　国際ファミリープラザ	
平成29年９月３日㈰	第１回乳児保育研修会	琴浦町　まなびタウンとうはく	
平成29年10月21日㈯	第２回障がい児保育研修会	鳥取市　福祉人材研修センター	
平成29年10月22日㈰		米子市　国際ファミリープラザ	
平成29年10月下旬	初任・初級保育士研修会③	未定	
平成29年10月26日㈭～27日㈮	第51回全国保育士会研究大会	富山県富山市	全国保育士会
平成29年10月31日㈫	第２回施設長研修会	倉吉市　倉吉未来中心	
平成29年11月９日㈭～10日㈮	**日本保育協会中四国ブロック研修会**	**米子市　米子ワシントンホテルプラザ**	**日本保育協会中四国ブロック**
平成29年11月11日㈯	第２回乳児保育研修会	琴浦町　まなびタウンとうはく	
平成29年11月15日㈬～17日㈮	第61回全国保育研究大会	兵庫県神戸市	全国保育協議会
平成29年11月頃	第２回食育研修会	未定	

※期日及び内容等については、変更となることがありますので御了承ください。

編集後記

「結局、人は、便利には勝てない。自然にも勝てない。」大雪を相手に、近所のおじさんがつぶやいた。「人は、便利に勝てないかあ。」「便利、便利、便利」「便利の意味って何だったっけ。」早速辞書で調べてみると、一、目的を果たすのに都合の良いこと。あることをするのに重宝で役に立つこと。また、そのさま。二、あることをする都合やぐあい。三、大小便。通じ。「へぇ、便利って大小便って意味もあるんだ。知らなかった。」現在では、大小便のことを便利という人はあまりいない気がします。そういえば、大小便をする場所のことを、「便所」って言う人も最近あまり出会わない気がします。

園および園児を
さまざまなリスクから
サポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。
(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する
各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん

「園賠償責任保険」
「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険)」
「特別保育事業賠償責任保険」
など、園経営におけるリスクに関する保険を
ラインナップしています。また、それらを総合的に
補償するセットプランもご用意しております。

園児総合保障共済制度

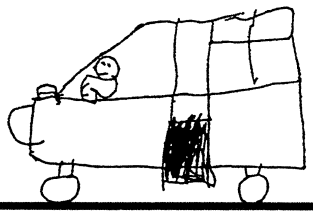
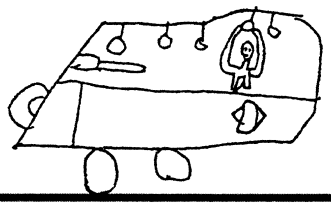
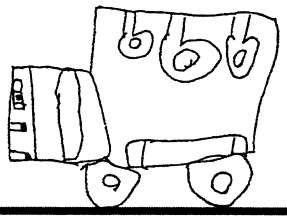
園児を24時間補償する
共済制度（こども総合保険）です。
団体契約による割引の適用で割安な掛金で
補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。
ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社代理店
有限会社ゼンポ
〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881　FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉
東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 文教公務室
TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険・こども総合保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

15-T08114 2015年12月作成